

めくる、めぐる、富山のしあわせ

とやま日季

にっき

2013 冬号



とやまブランドものがたり「富山干柿」

特集 とやま暮らし日季

砺波市／小林朋子さん、秀史さん

とやま対談

文化庁長官 青柳正規

富山県知事 石井隆一 ×

とやまを観る旅 新湊大橋

くらしたい国、富山

極上をあなたに。

とやまブランドものがたり



最高級の和菓子にも匹敵すると言われる富山干柿。富山干柿は酢の物やサラダにもよく合う。

デザートとしてだけでなく、料理に使って、新しい味わいを発見してみたい。

<http://www.hosigaki.jp/>

富山干柿

富山と石川の県境「医王山」の麓にある、富山県南砺市の福光・城端（ふくみつ・じょうはな）地域。ここは、江戸時代から400年続く、干柿の名産地。

11月中旬になると大きく実った南砺市原産種の三社柿の収穫が始まり、あちこちの農家で干柿づくりの作業風景が見られます。晚秋の貴重な晴れ間に収穫された柿の爽やかな香りで一杯になる作業所で、まずは皮むきを。皮をむいた柿は一つひとつ糸でつないで2個1組で竹に吊ります。干したばかりの鮮やかな柿が並ぶ様子は、富山の晩秋の風物詩。昔ながらの暮らしの知恵が、今も大切に受け継がれています。

干柿づくりは、医王おろしと呼ばれるこの土地特有の風を利用したり、乾燥機にかけて干し具合を細かく調整するのが勘所。途中で2回、手もみをして糖分を均等に行き渡らせます。さらに乾燥を繰り返し、手間暇かけて、約20日から25日で出来上がり。富山干柿は12月上旬から出荷が始まり、お歳暮や新年の贈答用に、全国各地へ届けられる長年の人気ブランドです。富山干柿出荷組合連合会の仲筋英生会長は、人気の理由を次のように語ります。



富山県推奨
とやまブランド

魅力ある富山県产品の中でも、とくに自信をもって誇れる極上の产品を「富山県推奨とやまブランド」に認定しています。豊かな自然と歴史、人々の知恵や文化を背景とした、富山の魅力の象徴として、国内外へ発信しています。

お問い合わせ: 富山県観光・地域振興局地域振興課
TEL 076-444-9605
<http://toyama-brand.jp>

「富山干柿は全国の干柿のなかでも、その大きさと糖度の高さで知られ、美味しい」といわれ、幅広い世代で注目されています。また、当組合では、210軒の農家すべてがエコファーマーに認定されています。同じ市内でも場所によって自然条件は異なりますが、長年の経験と勘で、皆で高品質の干柿づくりに努めています。それは難しくもありますが、誇りでもありますね」

出荷の何ヶ月も前から、待ちきれない人たちの注文が入るという飴色の富山干柿。自然で深みのある甘さと適度な歯ごたえ、丹念な手仕事は、富山の人々のやさしさそのものです。



いつも、心待ちにする人がいる。
ふるさとの冬のごちそう。

農家の丁寧な手事が富山干柿の美味しさの理由。春先の剪定から受粉、摘果、草刈りと農家は手間を惜しまない。「収穫した柿は人と同じで、一つとして同じものはない」と語る仲筋さん。天候や柿の個性を見極めながら、乾燥具合も熟度も微妙に調整する。やはり、長年の経験と勘が頼りだ。飴色のふくよかな富山干柿は、徹底した品質管理と職人技から生まれる。

てこころも、ゆづり
とやま
廿日市



一面の銀世界となる冬の散居村。屋敷林に囲まれた家々が、砺波の歴史と温もりを伝える。最近では、移住を考える方に空き家情報を提供する取り組みも始まっている。

自分らしい 暮らしが 砺波でつくる。

—— 砺波市・小林朋子さん 秀史さん

散居村の伝統家屋で、 パン教室をひらいて。

富山県西部に位置する砺波市（となみし）。田んぼの中に、「カイニヨ」と呼ばれる屋敷林に囲まれた民家が点在する散居村の景観が広がり、チューリップ球根の生産地としても知られています。のどかな田園風景の一角にある、築100年以上の伝統的家屋をリリフォームした自宅で、パン教室を主宰するのが小林朋子さんです。

朋子さんは岐阜県出身。砺波市生まれで岐阜の大学に進学していた秀史さんと岐阜で出会い、結婚を機に砺波へ。一方の秀史さんは大学卒業後、名古屋のIT企業に勤務。SE（システムエンジニア）として多忙な毎日を送っていました。しかし、結婚後の将来を考え

え、砺波へのUターンを決意します。

「毎朝、苦手な満員電車に揺られ、転勤も多い人生ではなく、故郷での落ち着いた生活を選んだ」と言います。

秀史さんは地元企業に再就職が決まり一足先に帰郷し、その後、朋子さんと結婚。実家を快適な2世帯住宅にリフォームしました。

朋子さんの砺波での暮らしは間もなく10年。友達づくりも兼ねて始めたパン教室「smile time」という名前には、少しでも笑顔になれる時間を共有したいという願いを込めています。教室は少人数制で、平日のみの開催ですが、朋子さんの明るさと、パンの美味しさ、丁寧な指導が評判となり、県外からも生徒が集まる人気の教室となっています。

「パンづくりは科学」と話す通り、教室は秒単位の段取りで進められます





砺波地方の伝統的家屋、築100年以上のアズマタチを快適な2世帯住宅にリフォームした小林邸。庭にはキジもやってくるという自然に恵まれた環境は、子育てには最適の場所だ。

手作りの暮らしを、家族で楽しみたい。

大きな吹き抜けや、座敷がある1階はご両親の居住スペース、2階は朋子さん、秀史さん夫婦と7歳の娘さんの、モダンで快適な住まいとなっています。窓からは四季折々に変化する庭の樹木や田園風景を望む理想の環境です。

市街地には商業施設が集まる一方で、自宅周辺では、穏やかな暮らしを実現できる砺波の住まい。都会では考えられなかつた生活を送り、子育てにも最適な環境だと小林さん夫妻は語ります。

「春には庭に桜が咲き、秋にはキンモクセイが満開に。娘は、おばあちゃんの庭仕事や畑仕事を手伝うのも大好きで

が、おしゃべりを楽しむのも大きな愉しみの一つ。合間合間に、賑やかな笑い声が響きます。また、試食の際のテープルスタylingにも朋子さんは抜群のセンスを発揮します。それは、お金をかけたものではなく、自分の好きな暮らしが丁寧に手作りしてきた朋子さんならではの発想とおもてなしの心に満ちたもの。手作りの美味しさと温もりに、多くの女性達が癒されています。

一度県外に出て戻り、子どもを持つて分かったこともたくさんあります。地域の行事全てに参加はできませんが、そういった集まりも、人との絆を深め、地域を維持するための先人の知恵。すごく大切なものなんだなど。それに、やつぱり、富山は魚もお米も美味しいです」と秀史さんも話します。

朋子さんは、あくまで家庭優先で、パン教室は今後も無理のないペースで続けていきたいとか。でも、子育てが一段落したら、いつかは自分のパン工房を持ちたいという夢も持っています。そんな朋子さんを、秀史さんも優しく見守り、応援しています。

「パン教室に『smile time』と名付けたように、誰にも等しく与えられた時間で、どう自分らしく、笑顔で暮らせるかが大切」と話す朋子さん。

「私たちが砺波で楽しく生きる姿をそのまま見せることで、娘にも一番いいことかなと思っているんですよ」

A day in the life of TOYAMA

ある1日のとやま日季

小林さんのある1日を教えてもらいました。



玄関を入ると、開放感のある吹き抜けに。入ってすぐの部屋は、見事なワクノウチの伝統の造りをそのまま保存。秋には自宅の庭で娘さんと栗拾いも。栗ご飯はもちろん、渋皮煮を作り、パンにも入れて楽しめます。



ランチスタイルレッスンのこの日は、3種類のパンづくりを。温度や発酵具合にも細心の注意を払う。パンが焼き上がったら、朋子さんの手料理やデザートとともに、おしゃべりしながら楽しく試食。テーブルスタイリングも朋子さんならでは。



パンのマグネットやバッグ、洋服も朋子さんの手作り。休日には秀史さんがDIYで家具作り。自宅周辺の田園地帯を親子で散歩しながら、許可をもらっているご近所のミントを摘みいでかけたり、揃いの手作りエプロンでパンづくりも。



パン教室がある日もない日も、毎朝5時前に起床する朝型の朋子さん。メール確認や朝食作り、秀史さんのお弁当作りなどを6時頃には家族で朝食。パン教室がある日は、レッスン内容を確認し、掃除、洗濯を済ませて教室の準備を。



パン教室は10時にスタート。「パンづくりは科学」と語る朋子さんは、パンづくりの大切なポイントを丁寧に指導。ランチスタイルレッスンでは、パンとスイーツを作り、美しくコーディネートした食卓でおしゃべりしながら試食を楽しむ。



教室が終わったら、片付けや掃除を済ませ、夕食の下準備。娘さんが小学校から帰宅するのは午後4時頃。近くまで迎えに行って、いつしょに帰宅。宿題を見ながら洗濯物を畳んだり、時間があれば教室や暮らしの様子をブログにアップ。



午後5時過ぎには娘さんと一緒に夕食。朝は手作りパンの食事だが夕食は和食。夕食と台所の片づけを済ませ、メール確認とブログの更新。8時には娘さんを寝かしつけて、翌朝焼くパンの準備にかかる。朋子さんも夜9時頃には就寝。

こばやし ともこ
岐阜県生まれ。砺波市出身の夫、秀史さんとの結婚を機に砺波市へリターン。秀史さんの実家である伝統のアズマダチをリフォームした2世帯住宅で、パン教室「smile time」を主宰。教室の様子はブログでも更新中。
<http://blog.livedoor.jp/usausa0906/>



とやま暮らし 便利雑季

砺波市



住みやすさが 全国トップクラス

安心・安全な地域コミュニティ

砺波市は住環境をはじめ医療や子育て環境、高齢者福祉の充実した住みよい都市として、民間経済誌でも常に全国上位にランクされています。各地域では夜高祭りや獅子舞などの文化・伝統がしっかりと受け継がれており、自主防災組織率100%を誇るなど温かい市民気質のもとで安心・安全な地域コミュニティが維持されています。

今後は、大規模商業施設の立地が進むことや、高岡砺波スマートICが開設されることなどで、生活面・交通面での利便性の向上が見込まれ、一層住みよい都市として発展することが期待されています。

定住の支援制度

一人泊、1,000円で 砺波の暮らし体験

伝統的家屋が多い砺波市では、定住促進と空き家利活用を目的に、空き家情報バンク制度を設けています。また、登録物件を購入し改修した場合の改修費や、賃借した場合の家賃に対しての補助制度があります。築100年以上の歴史がある砺波地方の伝統的家屋「佐々木邸」で、砺波の暮らしを体験できます。利用料は、一人泊1,000円(布団レンタル料が別途必要)で、最大で1週間連泊することができます。

Webサイト「散居村で暮らそう。」では、砺波市の暮らしの情報や売買・賃貸できる空き家物件の情報を紹介しています。

- 暮らしの情報・空き家物件紹介サイト「散居村で暮らそう。」 <http://www.city.tonami.toyama.jp/akiya/>
- お問い合わせ:となみ散居村ミュージアム TEL 0763-34-7180



写真は実際に居住されている家屋です。



自然と共生する 快適な地域づくり

自然豊かな公園がたくさん

住民の憩いの場として、都市公園や自然公園が充実しています。総面積115haにおよぶ広大な森林公園である「頬成の森」、庄川の清流を活かした様々なイベントが開催される「庄川水記念公園」、春には全国から約30万人の観光客が訪れ、周辺会場と併せて600品種250万本のチューリップが咲き誇る「チューリップ公園」など自然豊かな公園が多数整備されています。

- ガイドマップ(砺波市役所ウェブサイト)
http://www.city.tonami.toyama.jp/tonami_sypher/open_imgs/info/0000014567.pdf

「砺波市」までのアクセス方法

- 自動車で 関越自動車道・藤岡JCT→上信越自動車道・上越JCT→北陸自動車道・砺波IC
- JRで 東京→上越新幹線→越後湯沢駅(1時間15分)→北陸本線・高岡駅(特急はくたかで約2時間20分)→城端線・砺波駅(約20分)
- 飛行機とレンタカーで 羽田空港→富山空港(1時間)→国道41号線→北陸自動車道・富山IC→砺波IC
- 機とJRで 羽田空港→富山空港(1時間)→連絡バス・高岡駅→JR城端線・砺波駅



どやま対談

文化庁長官

青柳正規



富山県知事

石井隆一

青柳正規文化庁長官と石井隆一富山県知事が、
立山・黒部の世界文化遺産登録に向けた取組みや、
新富山県立近代美術館(仮称)の移転新築と
国立デザイン美術館構想との連携など、
これから日本の日本と富山の文化振興について
語り合いました。

石井 青柳長官には、これまで、本県の
文化振興の方策などについて、種々ご
尽力いただき感謝申しあげます。
まず、立山・黒部の世界文化遺産への
登録については平成19年に文化庁から、
意欲のある地方は立候補をというお話

「立山・黒部」を 世界文化遺産に

青柳長官には、これまで、本県の
文化振興の方策などについて、種々ご

があり、提案させていただきました。
翌20年、青柳長官には、本県の有識者懇

談会の座長として、立山・黒部について
「防災大国日本のモデルー信仰・砂防・
発電ー」として、優れた提案書をまとめ

ていただきましたが、残念ながら国の
世界文化遺産暫定一覧表への記載はな
りませんでした。ただ、その際に文化庁

から、「世界史的・国際的な観点から、
あることで、度重なる土石流で荒廃が



国内外の同種資産との比較研究を進め
る中で、歴史的・文化的な資産としての
評価が十分定まるよう検討すること」
という趣旨の助言をいただきました。
また、松浦前ユネスコ事務局長などの
方々からは、「防災をテーマとした世界
文化遺産は例がなく、立山砂防は非常
に着眼点が良い」との評価をいただき、
大変勇気づけられました。

これを受けて、富山県では、二つの取
組みを進めてきました。第一に、文化財
としての保護については、白岩砂防堰
堤を平成21年に国の重要文化財に指定
していただき、本宮砂防堰堤などにつ
いても、指定に向け取り組んでいます。
第二に、立山砂防の世界的な評価の
確立に向けては、必要な調査を進める
とともに、毎年、国内外の有識者にご参
加いただき国際フォーラムを開催して
きました。ちなみに、一昨年は東京で、
昨年は富山で開催しましたが、青柳長
官には、極めてご多忙ななか、ご講演い
ただいたり、パネラーとしてご参加下
さるなど、誠に有難く思います。

立山砂防の「防災」という視点は、こ
れまでにない新しい新しい視点だと、ご評価
いただきましたが、東日本大震災
などもあつて、世界的に防災への関心
が高まるなか、一層重要性が増大して
いるように思います。また、砂防堰堤が

続いていた土地に自然の植生が復元しています。立山砂防は「防災」と「エコ」を共に実現しているといえ、その点でも、今の時代にふさわしい提案ではないかと考えています。

世界文化遺産登録に向け、長官というお立場もあろうかと思いますが、何かご助言をいただければ有難く思います。

平成19年に、立山・黒部の世界文化遺産への登録に向け、知事から、富山县の有識者会議の座長として、具体的なテーマとして検討する機会をいただきました。その後の検討で、砂防に収斂

してきて、白岩砂防堰堤の重要な文化財指定や国際シンポジウムなどを積み重ね、立山・黒部の顕著な普遍的価値の解明が着実に積み上がつてきました。

立山・黒部の世界有数の豊かな水は極めて大事な資源ですが、飛越大地震の際には常願寺川を大量の崩壊土砂が流出し、数百人の命が失われ、現在も崩壊土砂2億m³が立山カルデラに堆積しています。中下流の人命などを守るためにコントロールすることができるようにになりました。立山砂防には富山平野の暮らしの安全を守る土木技術が結集しています。

さらに環境の視点も大きな特徴です。ヨーロッパなどと違って、日本では、

自然の脅威を力づくで抑止するのでなく、自然との共生が文化の起点にあります。立山砂防は日本文化を考える上でも、極めて重要な場所です。

石井 立山砂防は、水や土石流を単に堰堤で抑止するだけでなく、泥谷、白岩、本宮の三つの堰堤が各々、土砂の生產抑制、迂回（かんし）、流出調節という役割を担い、全体として「水系一貫の総合システム」となっています。泥谷堰堤に典型的にみられるように、それが同時に貴重な美術品等が重大な被害を被る恐れが大きいため、美術品政府補償制度の対象とならず、全国の美術館ネットワークから孤立していくことになります。このため、「県立文化施設耐震化・整備充実検討委員会」における検討、提言に基づき、幅広い県民の利便性等も考慮して、富山駅から近い県立の富岩運河環水公園の西地区に移転新築することとしました。

近代美術館には、ピカソ、ミロ、ジャムー、そこから「技術」が生まれ、「システム」が生まれました。さらに、縁と調和した「デザイン」が生まれ、その結果、環境との共生も実現できました。白岩では砂防堰堤の建設とともに緑化対策を行なうなど、その土地の神と穏やかに付き合いながら治水、防災を行つていまます。このことは、世界的にも高く評価されてよいと思います。

石井 立山砂防については、近く、これまでの取組みの集大成としての報告書を取りまとめることとしています。引き続き、ご支援をお願いいたします。

新富山県立 近代美術館（仮称）と 国立デザイン美術館構想

これらの中には優れた所蔵品をもつと活かすことはもとより、アトリエやギャラリーを新設し、例えば、子どもたちがデザインしたり、デザインやアートに触れて感動したり楽しんだりする場所にもしていきたい。

青柳 開館から32年が経過した県立近代美術館については、耐震性の不足や、展示室の消火設備がスプリンクラーであること等から大地震や火災などの際に貴重な美術品等が重大な被害を被る恐れが大きいため、美術品政府補償制度の対象とならず、全国の美術館ネットワークから孤立していくことになります。このため、「県立文化施設耐震化・整備充実検討委員会」における検討、提言に基づき、幅広い県民の利便性等も考慮して、富山駅から近い県立の富岩運河環水公園の西地区に移転新築することとしました。

近代美術館には、ピカソ、ミロ、ジャムー、そこから「技術」が生まれ、「システム」が生まれました。さらに、縁と調和した「デザイン」が生まれ、その結果、環境との共生も実現できました。白岩では砂防堰堤の建設とともに緑化対策を行なうなど、その土地の神と穏やかに付き合いながら治水、防災を行つていまます。このことは、世界的にも高く評価されています。

青柳 現在、世界で活躍する日本人デザイナーや建築家などの優れた業績を一堂に見られる場所がありません。そこで、国立デザイン美術館構想を新しく打ち出したいと長官就任前から考えていました。

日本ではすでに色々なところでデザインが収集されています。例えば、武蔵野美大では田中一光さんの素晴らしいポスターが収集、整理され、いつでも検索できるようになっています。富山の近代美術館には、世界でも有数の素晴らしいポスターや椅子のコレクションがあります。

国立デザイン美術館といつても、東京に大きな建物を作つてデザインに関

するものをすべて集めるというのではなく、各地のコレクションをネット



石井 隆一

いしい・たかかず／富山県知事。東京大学法学院卒。石川県、北九州市、静岡県などを経て、地方分権推進委員会次長、自衛省財政審議官、総務省自治税務局長、消防庁長官などを歴任。04年より現職。03年から06年まで早稲田大学大学院客員教授。主著に『元気とやま塾』入門—高志の国と世界を結ぶ』『分権型社会の創造』など。

伝統工芸・林忠正・デザイン

ワークで結んで、所在情報をきつちり把握し、国全体としてのシステムをつくりたいと考えています。

知事が言われるよう、富山県の新近代美術館には、そのネットワークの一部を担うような機能もぜひ持つていただきたいです。富山県には、高岡市のような伝統工芸の中心地もあり、色々な条件が揃っています。富山県との協力体制により、国立デザイン美術館構想も充実していくのではないかと考えています。

石井 東京に大きな施設をつくり、そこで完結するのではなく、意欲ある地方とネットワークをつくり、互いに刺激しあいながら日本全体を創造性豊かな国にしていきたいというお考えですね。誠にありがとうございます。ぜひ、そのネットワークが実現する折には新近代美術館も参加し、一翼を担わせていただきたいたいと思います。

青柳 そうですね。日本の工芸は世界に冠たるもので、非常に精緻で美しい、洗練されており、何百年も続いてきましたが、生活様式の変化などから買い物が少なくなり、産地は縮小しつつあります。このため、伝統的な工芸品などの分野に、もつと若い人が望んで飛び込んでいけるような状況をつくる必要があります。そのためには、日本で工芸をもつと評価すると同時に、海外でも日本の工芸を買いたいという人を増やしたいのです。そう考えると、制作者、デザイナー、そして産業化していく中小企業などの連携が重要となります。

日本のデザインは、伝統的な美術工芸とつながっているところが、世界のほかの国と違うところであり、国立デザイン美術館構想では、そこも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

石井 江戸期から明治期に入ると、特にパリ万博では、ジャポニズムとして日本の浮世絵や、高岡銅器なども高い評価を受けました。パリ万博で大きな役割を果たした林忠正は、高岡市の出身で日本人で初めて国際美術商と言われた人ですが、高岡銅器のデザインについてもアドバイスしています。

青柳 世界でも評価されている日本のファッショントカプロダクトは、こういう伝統工芸にも刺激を受けているのでしょうか。

青柳 そうだと思います。日本の近代化は、ヨーロッパの産業革命から100年遅れていたため、ヨーロッパではなくなつていた手工業による工芸品が、明治期にパリ万博に出展され、高い評価を受けました。それを、林忠正などが鋭敏な目で捉え、欧米の好みを考えながら日本の工芸品をヨーロッパに紹介し、販売したことは、今でも我々にとって大変参考になります。例えば、

奥山清行さんというフェラリーのデザインを手掛けた方がアドバイスしたピングの南部鉄瓶などは、フランスで飛ぶように売っています。このように、伝統的に非常に洗練された技術と、世界の動向をよく知るデザイナーが手を組めば、まだまだ日本の工芸は海外に雄飛する可能性があります。

富山県にも富山の香りのする工芸品、例えば、高岡銅器などの優れた伝統的工芸品があるわけですから、こうした伝統工芸の作家と著名なデザイナーがコラボで作品を作るなどお互いに刺激を受けることによって、新たな商品開発にも役立つのではないかと考えています。

石井 非常に心強いお話です。富山県では、国の伝統的工芸品として指定されている高岡銅器や高岡漆器、越中和紙、井波彫刻、庄川挽物木地に加えて、

昨秋、越中瀬戸焼、越中福岡の菅笠、岡鉄器、高岡仏壇、とやま土人形、富山木象嵌（もくぞうがん）の6品目を富山県伝統工芸品に指定しました。事業者の意欲、ニーズを踏まえ、販路開拓や後継者の育成などをサポートしたいと考えています。新近代美術館においても、イン美術館構想との連携も含めて、取り組んでいきたい。

勝興寺の大改修と 越中万葉



青柳正規

あおやぎ・まさのり／文化庁長官。東京大学文学部美術史学科卒、同大学院人文科学研究科修士課程修了。東京大学副学長、国立西洋美術館長を経て、13年、文化庁長官に就任。日本学士院会員。紫綬褒章、NHK放送文化賞受賞。主著に「古代都市ローマ」「人類文明の黎明と暮れ方」、「知識ゼロからの美術館入門」など。

文化庁からご支援をいただき改修を進めています。勝興寺については、新たな発見があり、工期が延びるそうですね。

青柳 勝興寺は、本堂、經堂、大広間や書院など、江戸時代に建てられた浄土真宗の伽藍がそのまま継承されており、京都の本願寺を除けば全国的に例が残されており、往時の景観を偲ぶことができる大変重要な文化財です。

今回の修復工事の過程で、例えば、当初はこけら葺であつたこと、唐門の

石井 高岡には、江戸時代に建てられた大規模な寺院建築である国宝瑞龍寺や、国指定重要文化財の勝興寺があり、

文化庁からご支援をいただき改修を進めています。勝興寺については、新たな発見があり、工期が延びるそうですね。

屋根材が現在、瓦葺ですが、当初は檜皮（ひわだ）葺であったことなど、新たな発見がありました。本来の姿できちんと復元されることが望ましいとのことから、工期が3年間延長され、平成32年までとなりました。

石井

工期を延長し、本来の姿でしつかり復元されることは、ありがたいこと

です。瑞龍寺は、第二期工事の終了後に、国宝に指定していただきましたが、勝興寺についても、近い将来、ぜひ国宝にご指定いただきたいとの思いであります。

勝興寺とその周囲には、千三百年前に越中の国府がおかれて、万葉集の実質的な編纂者とされる大伴家持が国守として5年間赴任していました。万葉集4516首のうち、家持が詠んだ歌は473首、そのうち越中で詠んだものが223首あります。県民にとって貴重な心の文化資産となっています。

やはり富山県には、家持が歌い4516首のうち、家持が詠んだ歌は473首、そのうち越中で詠んだものが223首あります。県民にとって貴重な心の文化資産となっています。

國立デザイン美術館構想を、長官が提唱されているのも、均質性の良さだけでなく、もつと異質なものを取り込んで、新しい創造力、文化力を育み、新たな日本の未来を創り出していくべきだというお考えからのように感じます。

青柳 おっしゃるとおり、ローマ文明などを見ますと繁栄する理由があるのですが、その理由によつてだんだん文明も衰退していきます。しかし、衰退を防ぐために、一つの社会や文明を、構造的に徹底的に違うタイプに作り替えることは非常に難しいことです。その地域の

たいという気持ちを起させるだけの、自然や景観の美しさ、四季の移り変わりがあつたからなのでしょうね。

デザインは 日本を刷新する力

石井

長官は、ご著書の『人類文明の黎明と暮れ方』のなかで、一つの文明が繁榮しやがて滅びていく過程において、その国を繁栄させた理由が、やがて衰亡の要因となっていく。日本では、明治維新以降、社会の均質性が発展の大きな理由であったが、良い商品を安く大量生産する時代が過ぎつつある今、それが、停滞の要因になつていています。従つて、もつと異質なものを積極的に受け入れる柔軟性が大事だとされています。

國立デザイン美術館構想を、長官が提唱しているのも、均質性の良さだけでなく、もつと異質なものを取り込んで、新しい創造力、文化力を育み、新たな日本の未来を創り出していくべきだというお考えからのように感じます。

青柳 おっしゃるとおり、ローマ文明などを見ますと繁栄する理由があるのですが、その理由によつてだんだん文明も衰退していきます。しかし、衰退を防ぐために、一つの社会や文明を、構造的に徹底的に違うタイプに作り替えることは非常に難しいことです。その地域の

自然、風土、歴史に影響されていますから。ただ、組織や団体を考えると、25%～30%くらいまでの改革は可能だと思えます。そこにどれだけ異質なものを取り込み、多様性を確保できるかです。また格差ではない形で、努力した者が報われるというようなことを社会が認めていくことが、これから日本のエネルギーになつていくのではないかでしょう。特にデザインについては、例えば、茶碗など生活の様々な道具は既に持つています。でも、これまでにない優れたデザインのものを出せば、人々はそれを買います。でも、これまでにない優れたデザインのものを出せば、人々はそれを買います。これが日本の良さをさらに刷新していく力になつていくと考えています。

石井

なるほど。一定の品質のものは豊かな社会では一応充足している。そこで、人々が是非欲しいとか、夢を持つには、デザインも含めて、これまでと異なる素晴らしいものを取り込んだ創造性あるものが必要となつていて。今までもそうした素晴らしいものはあつたが、あまり意識されておらず、全体を鳥瞰してみる場もなかつた。そこで、國立デザイン美術館構想ではそういう場を提供し、今の日本がもう一段飛躍するきっかけにしていきたいということですね。ぜひ実現していただけたらと思います。

今日は、大変貴重なお話を伺うことことができ、ありがとうございました。



海と大地と人を、
希望の架け橋がつなぐ。

とやまを観る旅。 第5回 新湊大橋



●射水市港湾・企業立地課
TEL 0766-82-1957
FAX 0766-82-8245
●射水市ウェブサイト
<http://www.city.imizu.toyama.jp>
●きららか射水観光NAVI
<http://www.imizu-kanko.jp>
●射水市観光協会
TEL 0766-84-4649



雄大な自然のなかで、 人とまちが結ばれる。

真っ白な雪を冠った立山連峰を背

に、水面から47メートルの高さにそびえる新湊大橋。射水市（いみずし）にある新湊大橋は、日本海側最大級の斜張橋は、平成24年9月に開通。富山を

代表する景観であり、人や地域、富山の各港を結ぶ交流の架け橋です。

新湊大橋は東西のアプローチを含む全長が3・6キロメートル。主塔の高さは127メートルで、富山県内では黒部ダムに次ぐ高さの建造物。大型貨物船もスムーズに入港できます。

橋のそばには海王丸パークがあり、海の貴婦人と呼ばれる帆船海王丸を係留。晴れた日に立山連峰と新湊大橋、そして海王丸がつくりだす光景は、誰もが心奪われる絶景。22時までライトアップされ、夜景もまた格別です。

橋は、車道とその下に全天候型歩行者用通路「あいの風プロムナード」を配置した2層構造で、プロムナードへはエレベーターで昇降可能。地域の方はもちろん、休日には多くの観光客が県内外から訪れ、橋の上からの富山新港や富山湾を満喫します。橋を渡つたら、越ノ潟フェリーで出発点に戻るのも楽しいもの。近くには新湊きつとき

と市場や新湊漁港もあります。射水市港湾・企業立地課主任の菓子真紀子さんは、新湊大橋を拠点に、路面電車・万葉線を利用したまち歩きや、遊覧船での内川の橋巡りをお勧めしています。

「漁船が係留された内川は、港町の情緒がたっぷり。新湊大橋や、個性ある11の橋を巡る船旅もいいですし、内川に架かる橋の上から望む冬景色や立山連峰も、とても素敵なんですよ」

そして、新湊地区の冬の楽しみは、やつぱり、富山湾の海の幸。万葉線の新町口などで降りて、富山湾の鰯やカニ、アマエビなど、旬の魚を堪能する味巡りに出掛けませんか。



お問い合わせ:富山県知事政策局(新幹線開業対策担当)
TEL 076-444-4056
http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1002/kj00013686.html

元気とやまマスコット
「きときと君」と「ぶりと君」！
元気とやまマスコット
「きときと君」と「ぶりと君」。県内外のイベント
で、2015年春に開業する北陸新幹線をPRしています。
富山のお米と海と山の幸が大好きで、好奇心旺盛。体重は、ブリ5本分くらいだそう。
ださい。

元気とやまマスコット 「きときと君」と「ぶりと君」！

四季を通して多彩な海の幸に恵まれた富山湾。そこから揚がる旬の地魚を味わう「富山湾鮨」は、地魚の握り10貫+汁物で、2,000円～3,500円（店舗毎に料金設定）。富山ならではの新鮮な極上寿司が、富山を訪れた

人々をもてなします。
更に贅沢に旬の海の幸を楽しむ「富山湾鮨会席『饗』（もてなし）」もスター。富山湾鮨に加え、旬の地魚の刺身や店自慢の品々を堪能できます。
6,000円～10,000円（店舗毎に料金設定）。



富山湾鮨誘客キャンペーン事務局
富山県観光・地域振興局観光課 TEL 076-444-3200
富山県鮨商生活衛生同業組合 TEL 076-491-3226
富山湾鮨ウェブサイト <http://www.toyamawan-sushi.jp/>

富山な幸の日
in 東京



出会いが効く越中富山のくすりフェア

江戸時代から300年あまりの歴史をもち、全国の人々に愛され続ける“富山のくすり”。昔懐かしい、「柳行李」や「薬研」などを展示しながら伝統の配置薬の世界をご紹介いたします。

2月25日(火)～3月2日(日) [いきいき富山館] JR有楽町駅前 東京交通会館B1F <http://toyamakan.jp>
くすりの販売時間:2月25日(火)～27日(木)14:00～17:00
2月28日(金)～3月2日(日)10:00～18:00(最終日は17:00まで)



売薬さんが薬を入れて持ち歩いた鞄

富山フェア【代官山T-SITE(蔦屋書店)×富山県】

「大人の遊び、33の富山旅。」春版のスタートに合わせ、代官山T-SITE(蔦屋書店)にて「富山フェア」を開催し、富山旅の魅力をご紹介します。

富山フェア:2月26日(水)～3月末(富山県関連の出版物や特産品の販売コーナーを設置)
富山マルシェ:3月1日(土)・2日(日)(ます寿しや地酒の販売、ご当地グルメのテイクアウト)
トークイベント:3月21日(金)(「クラフトや地方のモノづくり」をテーマにしたトークセッション)
富山県観光・地域振興局観光課 TEL 076-444-3200 「大人の遊び、33の富山旅。」<http://33toyamatabi.jp/>



代官山T-SITE
(Photo:Nacasa & Partners)

富山に来なければ堪能できない
美味しい旬の地魚鮨

「天然の生け簀 富山湾鮨」

とやま美食通信



昔ながらの味わいで、
県内外の方に評判です！

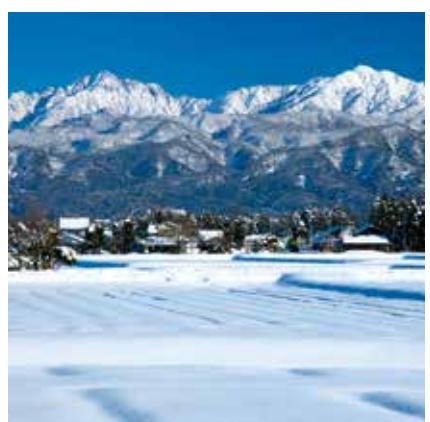


立山町伝統の味を今に活かす
食彩工房たてやま代表理事の
西尾智恵子さん

基本となる材料は立山町産の新大正
もちに砂糖と塩と里芋、そして冷たく
清浄な水と至つてシンプル。それに、シ
ロエビ、昆布、青のり、古代米、黒大豆、
そして、よもぎなどで、独自の香りと彩り
が添えられます。立山山麓からの寒風
で自然乾燥させることで、自然な甘味
が引き出されるとか。保存料は使わず、
手作り、本物、自然を大事にした
真心が、美味しさの秘密です。

1年で最も寒さが厳しくなる寒の
内、1月上旬から2月上旬にかけて立
山町で作られる色とりどりの「寒餅（か
んもち）」。古くから地元の女性たちが
冬場のおやつとして手作りしてきた素
朴な味わいが魅力です。甘味と塩味が
あり、さくっ、ふわっとした口どけで、
餅米のやさしい旨味が口一杯に広がり
ます。

立山権現かんもち



食の楽しさを彩る。

立山連峰の麓にある立山町はおいしい
お米と清浄な水に恵まれた土地。地元
の女性たちが起業した食彩工房たてや
までは、立山町の食材や風土を活かし
た様々な商品を製造販売しています。
かつて売薬さんがおまけに配った紙風
船に寒餅が入った「かんもち紙風船」
は、レンジで温めると、中のかんもちと
紙風船がふくらむ、見て楽しく、食べて
おいしい一品！

お取り寄せ情報

- 編みかんもち(塩・甘) 20枚入り 950円
- かんもち(塩・甘) 12枚入り 520円
- 箱入りかんもち 12枚入り×2袋 1,050円
- 焼きかんもち 100g入り 520円
- かんもち紙風船 3袋入り 520円

お問い合わせ: 農事組合法人 食彩工房たてやま
〒930-0232 富山県中新川郡立山町金剛寺270
TEL・FAX 076-463-5700

抽選で5名様に「立山権現かんもち1袋12枚入り」
をプレゼントします。詳細は挟み込みのアンケート
をご覧ください。

▲富山県

表紙の写真 砺波市・カイニヨとアズマダチ

富山県西部の砺波平野では、田んぼのなかに屋敷林に囲まれた農家が点在し、「散居村」の景観をつくりだしています。屋敷林は「カイニヨ」と呼ばれ、冬の風雪や春の南風から家を守ります。スギの落ち葉は燃料に、木材は建築に使われたものでした。「アズマダチ」などの伝統的家屋は、農業を軸とした自然と人の暮らしの調和を、今に伝えています。

砺波市の思い出

鷹西美佳

エッセー わたしのとやま

三八豪雪（昭和38年）の前年に生まれ、昭和56年の豪雪は大学受験に重なり、様々な節目で雪には振り回されてきた。冬場の帰省は特に気を探る。立川志の輔師匠が落語の枕で使うことの多い話だが、「天候調査中」の表示が出ていた羽田を飛び立つて1時間、富山上空で1時間旋回し、結局、着陸出来ずに引き返して1時間…「3時間経つても羽田空港から一步も出ていないじゃない!」という経験は私にある。

安全のため、機長が慎重になるのは無理はないが、観光業界をはじめ北陸新幹線の開通を心待ちにしている人は多いのではないか。

そんな富山だが、秋から冬にかけては美食の宝庫。まことに勝手ながら私の好みを擧げると、庄川（砺波市）の「子持ち鮎の塩焼き」と山野（南砺市）の里芋。冬の風物詩である「氷見の寒ブリ」は

刺身や塩焼きで（ブリしゃぶは、幼い頃には無かつた！）、「香箱ガニ（雌のズワイガニ）」は解して寿司飯に混ぜ、「かぶら寿司」を少々。県の東部と西部では微妙に食文化が違うが、かぶら寿司は西の文化。ブリが挟んである高級品より、幼いころから親しんだサバが好き。他にも「昆布締め」や地元の日本酒など、挙げればキリがない。なんと贅沢なことか！

先日「日帰りで富山に行くが、何を食べたらしいのか？」と聞かれてオススメしたのが回転寿司。その人は帰つてくるなり「安くて美味しいくて最高！それを食べるためだけに飛行機で日帰りしても良い！」とまで言い切った。なので、帰省するたび「美味しいものを、いっぱい食べて帰ってきたよ」とわざわざメールして羨ましがらせていく。これって、意地悪でしょうか？